

IMI 臨床診療における近視管理に対する意識と戦略の世界的動向 — 2025 年アップデート

Prof. James Wolffsohn

PhD

IMI Committee Chair and Chief Scientist
Aston University, UK

近視管理については、行動、光学、光環境、薬物療法を含むさまざまなアプローチが積極的に研究され、臨床現場でも導入が進んでいる。しかし、前近視または近視の若年患者を管理するための世界的に標準化された方法は依然として存在せず、介入へのアクセスにも地域間で大きな差がある。2015 年、2019 年、2022 年に実施されたこれまでの世界調査では、臨床家の近視に対する懸念が強く、近視進行抑制に取り組んでいると回答しているにもかかわらず、進行中の若年近視患者の多くに単焦点矯正が処方され続けていることが示された。本論文では、世界の臨床現場における近視への意識と管理実態を調査した 2024~25 年 IMI Global Survey の最新結果を報告する。

本調査では、約 3,000 名の眼科医療従事者から回答を得た。解析は 5 大陸を対象とし、これまでの調査と同様、回答者の大半はオプトメトリストと眼科医であった。小児近視の有病率上昇に対する懸念はすべての地域で依然として高く、アジアで最も強かった。近視管理に関する臨床活動は過去 10 年間にわたり着実に増加しており、併用療法とオルソケラトロジーが最も有効な介入と認識されていた。

それにもかかわらず、単焦点眼鏡は依然として最も多く処方されており（大陸別に 18~39%）、次いでコンタクトレンズ（2~11%）であった。一方で、その使用は徐々に減少しており、単焦点眼鏡の処方率は 2015 年以降 11.1% 減少した。同時に、近視進行抑制に特化した介入の使用は増加しており、近視進行抑制用眼鏡（14~23%）、ソフトコンタクトレンズ（3~16%）、オルソケラトロジー（3~10%）、アトロピン治療（4~22%、主に 0.01% 濃度）が含まれた。

世界的に、患者負担となる費用が近視介入を処方する際の最大の障壁として引き続き挙げられている。また本調査では、近視管理を提供することが、臨床家の職務満足度の向上および患者の継続受診・信頼の向上と関連することも示された。

謝辞

本 IMI ホワイトペーパーの要約は、責任著者 Prof James Wolffsohn DSc PhD, MBA, BSc により作成された。IMI タスクフォースメンバーの全リストおよび IMI ホワイトペーパー全文は myopiainstitute.org で閲覧できる。本 Clinical Summary の出版および翻訳費用は、BHVI、ZEISS、EssilorLuxottica、CooperVision、Alcon、HOYA、Théa、Oculus からの寄付によって支援された。

参考文献

Whayeb Y, Wolffsohn JS, Logan NS, Santodomingo-Rubido J and the International Myopia Institute ambassador group. IMI-global trends in myopia management attitudes and strategies in clinical practice - a nine-year review. *Contact Lens and Anterior Eye*. 2025:102492.

連絡先

Brien Holden Vision Institute Ltd
Level 4, North Wing, Rupert Myers Building, Gate 14 Barker Street,
University of New South Wales, UNSW NSW 2052